



安原の  
いま

総人口 4,442 人 (前年比 -46 人) 【男 2,140 人 女 2,302 人】  
安原地区公民館 〒390-0802 松本市旭 2-11-13 TEL 0263-39-0701

令和 7 年 10 月 15 日、今年の行き先は上越に日帰りバス 29 人の旅。「上越市立水族館うみがたり」でガラス越しに海中の魚と語らい、「道の駅うみてらす名立」で海鮮の昼食と買い物時間を過ごしました。夜半の雨もやんだ朝 7 時、安原地区公民館を予定通り出発。サービスイリアの休憩は嬢捨と妙高で 2 回、余裕を持って取られました。水族館「うみがたり」は 2018 年 6 月にリニューアル

## 上越 快晴 美しい海が望め

～安原地区町づくり協議会の旅～

「道の駅うみてらす名立」では、昼食と買い物する自由時間が計画されていた。海鮮のメニューを中心にした食事処がいくつもあり、どれ



ザ・日本海

小布施から高速に乗りました。須坂の大型商業施設は、朝とは違い駐車場にたくさん車両が見えました。嬢捨で休憩をはさみ、バスは予定通り安原地区公民館に無事到着。笑顔と感謝の言葉を交わし、それぞれの家路へと向かいました。

確かにいっぱいでした。10 月はハロウィンの飾りがあちこちに施され、水槽の中にも目鼻のあるかぼちゃがいくつも確認できました。

観光、小布施の岩松院に立ち寄りしました。有名な北斎の天井絵「八方睨みの鳳凰図」は説明を聞きながら鑑賞しました。178 年もの時間が経っても色あせない、不思議な世界を堪能しました。

ルオープン。今回の参加者の中にも「リニューアル後は初めての機会」だった方も多かったようです。海辺に建つロケーションは長野県では望めず、県内から多くの来場があるのはうなずけます。当日はイルカショーを見られませんでした。日本では、一番多くの飼育数を誇る、マゼランペンギンは、説明を聞きながら鑑賞しました。178 年もの時間が経っても色あせない、不思議な世界を堪能しました。



飼育数日本一のマゼランペンギン

## 木下尚江はあの激動の時代をどう生きたか？

～普通選挙法制定 100 年特別企画～

10 月 25 日、安原地区人権啓発推進協議会・安原地区まちづくり協議会文化部会主催の講演会が開催されました。普通選挙運動に参加した天白町出身の木下尚江 (1869～1937) の生涯と思想を、彼の書いた小説を通して講演してくださったのは、元高校教師で自身も小説を書く桜井政男先生です。

代理人 (弁護士) の資格を取り法律事務所を開設しながら新聞記者を務めた尚江は、山形村出身の中村太八郎らと共に松本で普通選挙運動を始めました。ところが政治とカネのいざごに巻き込まれ捕まってしまう。獄中で差し入れられた聖書によってキリスト教の精神に目覚め、その後無罪となった尚江は毎日新聞に「火の柱」を連載。

「良人の自白」「霊か肉か」「墓場」など次々と優れた小説を発表しました。「墓場」では新たに仏教の考え方が表れています。

これらの作品には尚江の思想や体験が色濃く反映されて

います。創作的な部分を差し引きながら、桜井先生は次のように語りました。尚江は母親・祖母・初恋の人・妻をはじめ女性全員に対する優しさ人間愛が感じられる。相馬愛蔵・幸徳秋水・田中正造・岡田虎次郎 (静坐) 黙って座ることで自分を見つめることを勧める」といった人々との出会いから様々な影響を受けた。

尚江は明治・大正・昭和の激動の時代を生き、民主主義と反戦を訴えたのです。

講演会には尚江のお孫さんも訪れ、今も尚江が住んだ東京の地で暮らしているとのことでした。

講演をされる桜井先生



## 歴史・文化財をつなぐ 旭町小6年生「歴史まち歩き」



近藤次繁の銅像の前で説明を聞く児童

とても冷え込んだ朝でしたが、風もなく青空が広がった10月29日、例年行われている6年生の歴史・文化財を巡るまち歩きが行われました。児童と地域のみなさんが交流する機会としての学習会でもあります。

地区内の歴史研究会の有志の方が講師やボランティアを務め、2クラスに分かれ約2時間のまち歩きが始まりました。

まず教室内で松本城を中心に形作られたまちの歴史講話が行われました。実際のまち歩きから水が必要とするあちこちにある水路の大切さ、鳩

山一郎元首相の母親鳩山春子や野口英世のやけどの手を治した医師の近藤次繁、普通選挙運動の先駆けとなった木下尚江、小学校の義務教育化や無償化に尽力した澤柳政太郎など、日本の近代を作った地域の偉人の誕生地を巡り、この地区には多くの大切な歴史と文化があることを学んだまち歩きとなりました。

子どもたちにとって、このまち歩きが将来この地を離れても、自分の故郷を誇れるように心に残り、つないでいってほしいと願う交流学習でした。

## 「七味フレンド講座」開催



11月11日、安原地区公民館大会議室で、根元八幡屋礒五



思い思いの調査を楽しむ参加者

郎・広報部の芋川さんと中山さんを招いて「七味フレンド講座」が開かれました。

ブレンドの前にスライドを見ながら、日本三大七味のひとつである八幡屋礒五郎（創業1736年）、その歴史が紹介されました。三代目が戸外での販売を始め、四代目が辛さ三種の配合を考案し、そして六代目が今の缶に入れて売られるようになったこと等、地道な努力や斬新な工夫が老舗といわれる会社につながっていると感じられます。

また、善光寺ご本尊の阿弥陀如来にちなむ八幡神と、初代勘右門の商い名が礒五郎だったという社名の由来もあるそうです。材料となる唐辛子や山椒が飯綱町の畑で収穫され、洗浄と乾燥、焙煎と粉砕まで、機械と人の手で丁寧

に仕上げられる様子も映し出されました。将来は全ての材料を自社で栽培する取り組みも始めているそうです。

七つの薬味それぞれの薬効をお聞きし、いよいよ七味をブレンドします。ズバリと並んだスパイスは十種類、メインとなる唐辛子は太辛と中辛を用意してくださり、まさに匙加減で自分の好みにあった七味をブレンドします。20人の参加者は、陳皮やごま、紫蘇、ご自慢の山椒など一つ一つの香りを楽しみながらカップに入れ、マイ七味を作っていました。減塩や免疫力の向上にもつながる七味の奥深さに触れた講座でした。

## いちよう並木

雪の中で咲く春を告げる花  
スノードロップ

寒さに負けず花を咲かせる  
スノードロップ

雪で覆われていればそれでも良いのです。庭の片隅に植えていち早く春を感じてみては如何でしょうか。

壤を好み、寒さには強いが乾燥を大変嫌います。コーカサス地方で18種類が確認され、園芸種を加えると200種類もあるそうです。

水仙に似た2枚の葉に守られた蕾が開くと、豆ランプのような真っ白い花が吊り下がった状態で咲きます。晩春には葉が枯れ始め、夏の暑い間は休眠状態に入ります。その時掘り起こして、親株から球根を外し保存しても良いです。土に植えたままでも構いません。秋が過ぎ気温が下がってくると又青い新芽が出てきます。休眠中は水やりは必要ありませんが、花のある間は地面が凍結していても水は与えてください。